

氏名	柏 谷 昌 昭		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2615 号		
学位授与の日付	平成 5 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	Differential Behavior of Fractioned Skin Cells in the Mixed Skin Cell-Lymphocyte Reaction and Spontaneous Cell-Mediated Cytotoxicity (皮膚細胞リンパ球混合培養試験と自発性細胞性殺細胞能試験とにおける皮膚細胞分画の行動の相違)		
論文審査委員	教授 荒田 次郎	教授 中山 睿一	教授 難波 正義

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

非免疫のラット脾細胞は、NK 活性に属する自発性殺細胞能試験においてラット表皮細胞を融解する。また、皮膚細胞リンパ球混合培養試験においては表皮細胞が非免疫のラット脾細胞を増殖させる。しかしながら表皮細胞には種々の細胞が含まれている。そこで表皮細胞をパーコール密度勾配遠心法により重分画し、各試験を行った。自発性殺細胞能試験では、高い感受性を持つ細胞群は、中間比重分画の細胞に存在し、攻撃細胞が同系または同種に拘らず感受性のある分画は同じであった。皮膚細胞リンパ球混合培養試験では、低比重分画の細胞が強い刺激力を有しており、同種および同系の組合せに拘らず同様の反応パターンであった。また低比重分画の細胞が class I, class II 抗原を表出していた。以上より、リンパ球増殖刺激はランゲルハンス細胞と Ia 抗原を持った角化細胞が関与すると考えられる。また自発性殺細胞能試験での感受性決定因子は、特異的な抗原であるが、種特異性がなく、class I, class II 抗原とも異なっている。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

論文提出者は、非免疫ラット脾細胞によるラット表皮構成細胞の融解反応、また、ラッ

ト表皮構成細胞による非免疫ラット脾細胞増殖反応に関わる表皮構成細胞画分につき検討した。その結果、1) 両反応に関わる表皮構成画分は異なる、2) NK 活性の標的となる表皮構成細胞上の因子は、系特異性がなく、クラス I, II 両抗原とも異なっていることを明らかにした。種々の質疑・応答の結果、本委員会では、柏谷昌昭氏が博士（医学）の学位を得る資格があると判定した。